

あらゆる人が楽しめるスポーツのまちづくりで  
筑豊地域の活性化を

( 意 見 書 )

令和元年6月

福岡経済同友会 筑豊地域委員会

# 「あらゆる人が楽しめるスポーツのまちづくりで筑豊地域の活性化を」

福岡経済同友会 筑豊地域委員会

## 1. パラスポーツの振興と共生型社会の実現

2020 東京オリンピック・パラリンピックの開催が決まり、全国各地で各国からの選手団受入等の準備が進められている。筑豊地域においては、飯塚市が南アフリカの車いすテニスとパラ水泳、田川市がドイツの車いすフェンシングの事前キャンプ地に決定した。

もともと筑豊地域はパラスポーツへの関心が高い地域である。1985年に始まった飯塚国際車いすテニス大会は、日本の障がい者スポーツ大会のパイオニア的存在として位置づけられ、多数の市民がボランティアとして運営を担う“イイヅカ方式”は、大会に参加する世界のトッププレーヤーから高い評価を得ている。現在では世界4大会に次ぐアジア最高峰の大会となっており、昨年からはメインシングルス優勝者に天皇杯・皇后杯が授与されるまでになった。加えて、2017年2月に、飯塚市に所在する庄内温泉筑豊ハイツが車いすテニスのナショナルトレーニングセンター競技別強化拠点施設に指定され、車いすテニス JAPAN ナショナルチームの選手が飯塚の地で頻繁に合宿を行っている。また、田川市でも2018年6月に「全日本車いすフェンシング選手権大会」が開催されるなど、パラスポーツ関連のイベントが頻繁に行われるようになっている。

パラリンピックのキャンプ地に指定されたこともあり、筑豊地域では障がい者への理解を深め共生を推進するための様々な取り組みが始まった。田川市では、2016年度より市職員や市民に対して「心のバリアフリー研修」を実施し、小学生がパラスポーツを体験するプログラムを導入するなど、市民の理解促進のための活動を強化している。さらに、嘉麻市の県立嘉穂特別支援学校は2017年度に「スポーツ活動実践事業実施校」の指定を受け、障がい者スポーツの場としての活用が始まり、障がい者スポーツの輪が拡がりつつある。

国はパラリンピアンとの交流をきっかけにユニバーサルデザインの街づくりや心のバリアフリーに取り組む「共生社会ホストタウン」を推進しており、飯塚市、田川市は2018年5月に登録された。これまでに14自治体が登録されているが、隣接する2市が登録された地域は全国でこの地だけである。

以上のような筑豊地域におけるパラスポーツへの熱心な取り組みは、全国的にみても先進的なものである。2020 東京オリンピック・パラリンピックが終了した後も、オリパラのレガシーとして、その活動を継続・強化することが望まれる。

パラスポーツ関連施設のさらなる充実は無無論のこと、行政・市民・企業が障がい者を手厚くもてなし、バリアフリーのまちづくりを進めれば、パラスポーツのメッカとして、国内外から多数のパラスポーツ愛好者の入り込みが期待される。そうなれば国内は無無論のこと、海外に対しても筑豊地域を強力にアピールすることができ、住民に誇りと自信をもたらし、さらには地域経済の活性化に結びつくことも期待される。

また、パラスポーツ愛好者が訪れやすいまちづくりを進めることは、県内でも高齢化の進展や人口減少が著しい筑豊地域において、住民の暮らしやすさの向上にダイレクトに結びつくことになり、人口流出の抑制や流入の促進につながると期待される。こうした効果をふまえると、筑豊地域全体でパラスポーツの振興と、さらにはあらゆる人が暮らしやすい共生型社会の実現に取り組むべきである。

## 2. 地域資源を活かしたスポーツツーリズムの推進

パラスポーツに限らず、筑豊地域は各種スポーツの盛んな土地であり、現在も新たな施設の整備やイベントの準備が進んでいる。

飯塚市では、新体育館の建設が始まろうとしており、2022年に供用開始の予定である。新体育館は市のスポーツ施設の拠点となるだけでなく、大規模なスポーツイベントの実施等により市外からの集客も期待される。直方市においては、米菓製造販売会社が勧進元となり大相撲冬巡業が開催されているほか、北九州直方自転車道が2019年秋に全線開通の予定であり、既に整備された飯塚直方自転車道、遠賀宗像自転車道と合わせて「自転車を活用したまちづくり」がスタートしている。田川地区では、プロボクシング大会が頻繁に開催されており、田川市では車いすフェンシングに加えて、ドイツのボクシングチームのオリンピック事前キャンプ地となるべくドイツ側と折衝を重ねている。嘉麻市では九州最大のボルダリング施設が2018年オープンした。それ以外にも、福智山でのトレイルラン、遠賀川でのボート・カヌーやフィッシング等、筑豊地域では自然を活用した様々なスポーツアクティビティが提供可能である。

こうした資源を有効活用し、例えば大規模なスポーツの試合を開催することができれば、全国からファンやチームサポーターの訪問が期待でき、プロ・アマに限らずスポーツ合宿の受け入れが進めば、地域経済への多大な波及効果が見込まれる。また、サイクリングは欧米等の旅行者に人気の高いアクティビティであり、自転車道の活用次第ではインバウンド獲得につながることも期待される。以上のようなポテンシャルを活かすべく、筑豊地域全体でスポーツを通じたまちづくりに積極的に取り組むべきである。

## 3. 筑豊地域が一体となった取り組み

パラスポーツやスポーツツーリズムの推進は、社会体育関係の職員に限られる自治体単独ではできることに自ずと限界があるため、複数自治体が連携して取り組む必要がある。

また、自治体だけで企画・運営しても、住民や企業を巻き込まなければ地域に根付いた活動とはならず、経済効果も限定的なものに留まるおそれがあり、最終的には筑豊地域の全ての自治体ならびに主要なスポーツ団体、観光団体、福祉団体、企業、住民等が参加する「筑豊地域スポーツコミッション」(仮称)の設立が強く望まれる。スポーツコミッションには専属のスタッフを配置し、大規模なスポーツイベントの誘致や住民参加型のパラスポーツイベントの企画・運営、国内外への筑豊地域のスポーツ情報の発信を担うなど、筑豊地域全体で「あらゆる人が楽しめるスポーツのまちづくり」に取り組む推進役となることが期待される。

以上を踏まえ、我々福岡経済同友会筑豊地域委員会は、国・県や筑豊地域の市町村ならびに経済界に対して以下の内容の推進を強く要望する。

## <要望事項>

### 1. 「パラスポーツの振興と共生型社会の実現」に関して

#### (1) パラスポーツ関連

- ・パラスポーツの合宿やキャンプの誘致、パラスポーツ競技会等の誘致もしくは主催
- ・既存スポーツ施設でのユニバーサルデザインの徹底
- ・筑豊ハイツ屋内テニスコートの早期改修と将来的な建替えの検討、ならびに筑豊緑地内での飲食の提供を可能とする規制緩和
- ・筑豊地域の児童・生徒等を対象としたパラリンピック事前キャンプ見学会、パラスポーツ体験会等の実施

#### (2) あらゆる人が訪れやすく暮らしやすい社会づくり関連

- ・企業における高齢者・障がい者雇用の推進
- ・福岡県筑豊地区タクシー協会による「日本一高齢者・障がい者に優しいタクシーサービス」運動の推進
- ・ユニバーサルデザインを徹底した宿泊施設の整備（トレーラーハウスを含む）
- ・公共施設におけるユニバーサルデザインの徹底
- ・急勾配な歩道などでのリフト・エスカレーター等の設置
- ・高齢者・障がい者が利用しやすい官民施設マップの作成
- ・住民による高齢者・障がい者へのおもてなし・手助け運動の筑豊全体での取り組み

### 2. 「地域資源を活かしたスポーツツーリズムの推進」に関して

- ・スポーツの合宿やキャンプの誘致
- ・大規模スポーツイベントの誘致や自らの手による企画・運営
- ・筑豊各地のスポーツ施設の連携・共同利用等の推進
- ・自転車道やボルダリング施設、英彦山・福智山・遠賀川等の自然等を活かしたスポーツアクティビティの創出
- ・九州旅客鉄道や平成筑豊鉄道、筑豊電鉄などでのサイクルトレインの導入

### 3. 「筑豊地域が一体となった取り組み」に関して

- ・自治体が連携したパラスポーツやスポーツツーリズムの推進
- ・「筑豊地域スポーツコミッション」（仮称）の設立
- ・スポーツコミッションにおける専属職員の配置
- ・スポーツコミッションによるスポーツイベントの誘致、自主イベントの企画・運営、国内外への情報発信

以 上

令和元年6月3日

福岡経済同友会

代表幹事 貫 正義

代表幹事 久保田勇夫

代表幹事 津田 純嗣

筑豊地域委員会

委員長 廣瀬 彰義

副委員長 谷 弥寿彦

副委員長 緒方 隆博

副委員長 中村 義道